

北 どころ

第103号 2024年10月1日（毎月1日発行）



下久野の鉄橋を渡る「あめつち」

木次線ストロール⑩ 下久野駅

「『砂の器』のロケ地で

『あめつち』に出会う」

9月16日の午前7時半過ぎ、車で庄原の自宅を出発した。三カ月ぶりの木次線の取材、そして久しぶりの遠出である。今日は第3月曜日、敬老の日の祝日。沿道の田んぼは7割方、稲刈りを終えているだろうか。いよいよ新米の季節である。蕎麦畑の白い花が満開だった。景色は秋めいているが、

9時過ぎに出雲八代駅に到着。国道314号線から外れた場所に駅があるので、道に迷ってかなり時間をロスしてしまった。駅前には無人の駅のホームで列車を待った。ホームのベンチに座っていると、秋の虫と油蟬の合唄が聞こえてきた。

9時35分発の宍道行きに乗車。オレンジの車両だった。先客は4名程。祝日なので、観光客が多いのではないかと予測していたのだが、微妙である。列車はホームを出ると、しばらくして長いトンネルに入る。全長2241メートルで、トンネルの多い木次線でも最長！

この下久野トンネルのことが『砂の器』と木次線（村田英二、ハーベスト出版）に書かれている。「工事は昼夜を問わず三交代で行われ、のべ一九万人以上の労力が投入された。地元の住民も久野労働団を組織してつるはしやスコップを振った。だが、地盤は悪く、工事は相次ぐ落石や湧き水との戦いとなった。今のようにヘルメットもなく、けが人が続出。そのたびに坑内は救出に大騒ぎとなった。」

事故による死者6人、負傷者は465人、完成までに2年10カ月を要した。木次線最大の難工事であったという。

長いトンネルを出たあとも、山間の緑のトンネルが続く。7分程の乗車で、下久野駅に到着した。珍しく、わたしの他にも下車した男性がいた。この駅が目的地らしく、待合室で一緒になったので声をかけると、神奈川県在住の鉄道ファンで、「あめつち」の撮影が目的だという。

「奥出雲おろち号」の後継である観光列車「あめつち」。山陰本線の米子駅から木次線に乗り入れて、出雲横田まで走っている。しかし、鳥取駅―出雲市駅間の運行がメインで、木次線を走るのは月に4日程。今日がその運行日なのである。快速列車なので、下久野駅には停車しない。駅を通過する「あめつち」が目的なのか、近くに撮影スポットがあるのだろうか。

出雲神話にちなんだ駅の愛称は「動動（あよあよ）。解説板によると、昔、農民が田を耕している



「砂の器」の「亀嵩駐在所」のロケ地



諏訪神社の石灯籠

と、突然、鬼が襲ってきて、男を食おうとした。男は驚いて竹藪の中に隠れたが、竹の枝が動いてしまった。男は鬼に食われながらも、「動動(あよあよ)」と叫んだ。それで阿用という地名になったという、人間にとってはいささか衝撃的な結末。

駅構内の線路跡が駅ナカ農園として再利用されている。地元の住民グループ「花ももステーション」が駅の管理と共に運営している、ようだ。わたしの訪問時には、猛暑も影響しているのか、畑の端に紫蘇が生い茂っているだけだった。

出雲八代駅と同様、古い駅舎が残っている。木製の改札ゲートに、レトロな乗車券販売の窓口、木製のベンチもどっし

りと鉛色に光っている。外壁の梁に、「建物財産標」の小さなプレートを見つけた。「本屋1号 昭和7年12月18日」と記されている。90年を超える歴史を刻んだ“財産”である。

駅前には、商店だったと思える建物が点在するが、まとまった商店街の痕跡は見当たらない。松本清張原作の映画「砂の器」の撮影が多く行われた土地なのだが、当時ものどかな山村の雰囲気を残していたのだろう。

駅前の下久野橋を渡って、安来木次線(県道45号線)に出る。バス停留所のそばに立つ「久野地区案内図」を精査したが、目的地が見つからない。人影を見つ

けて尋ねた。

「映画の『砂の器』のロケ地で、駐在所のあった場所に行きたいのですが」「ああ、ここから2キロぐらい歩きますよ」

一瞬、迷った。残暑の炎天下、大丈夫か？ 中年男性のアドバイスに従って、近くの自販機で飲み物を買っているときだった。これより先は、自販機もないらしい。車の停まる音が聞こえて、先ほどの男性が声をかけてくれた。

「行きだけでも送っていきますよ」
ありがたく厚意に甘えた。実は、腰椎すべり症の悪化で痺れが足首ま

できて、用心のために杖を持参していた。今日は敬老の日である。

目的地に無事、到着。久野川の木の橋の袂に「亀嵩駐在所」のセットが組まれ、撮影が行われた場所である。橋はコンクリートと金属製の欄干になっていて、駐在所の建物もない。正直、映画の記憶もかなり薄れているが、こうしてロケ地を訪れることができたのは、村田英治さんの本のおかげである。井谷橋の袂の道端にコスモスが群生して、オレンジ色の花が満開だった。

県道に戻って安来方面に少し歩くと、諏訪神社がある。長野県の諏訪湖にある諏訪大社が総本社で、諏訪神社を呼称する神社は全国で約2万5千もあるという。しかし、出雲大社のおひぎ元での出会いに驚いた。神社には三カ月ぶりの参拝、しばらく首を垂れていた。海外の戦禍に自然災害、願い事が多すぎる。境内の石灯籠の胴石の部分に大きく、丸の中に金の文字が刻んである。他の場所でも見た記憶がある。鉄師の金屋子信仰と関係があるのだろうか？

下久野駅への帰路、木次線の鉄橋のそばを通る場所がある。神奈川の鉄道ファンの方との会話を思い出した。ひよっとしたらとカメラを用意して待機していたら、汽笛の音が聞こえた。鉄橋を渡る「あまつち」の勇姿を撮影することができた。これから、下久野トンネルに向かうのだ。二体の道祖神が見護っている――。



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「駆ける」

稲田幸久 著 角川春樹事務所

少年騎馬遊撃隊の副題。野盗に村を襲われ、一人生き残った少年、小六。騎馬を育てることで生計を立てていた村で育った小六は、毛利軍の吉川元春に拾われ、騎馬遊撃隊の一員となる。時局は緊迫、尼子氏再興を図る知将、山中鹿之助幸盛との月山富田城での決戦が迫っていた――。

「風が汚れていた。」最初の1行で、戦国時代にトリップさせられた。尼子軍の内実も情感たっぷりに描かれていて共感できる。敵と味方に分けるのではなく、それぞれに仁義があり、正義がある。安芸高田市職員の著者は、当作で第13回角川春樹小説賞を受賞してデビュー。



「もったいないじいさん」

今井美沙子 著 作品社

節約好きのじいさんの話かと思って読み始めたら、とんでもないモンスター・ドケチじいさんだった。新聞紙を小さく切って、ティッシュ代わりに持ち歩いているのを読んで、祖父母の家のポッチャントイレを思い出した。チリ紙大に切られた新聞紙が置かれていた。しかし、このじいさんは、小ではトイレの水を流さない。介護している奥さんの紙おむつを、干して再利用しようとする……。



手紙の封筒を裏返しにして再利用、ティーパックは乾かして何度も利用、食器は割れても瞬間接着剤で修復等々。家族は大変だが、他人事は面白い。最後まで節約人生を全うできたじいさんは贅沢だと思う。

「この骨董が、アナタです。」

仲畑貴志 著 講談社

著者は数々の受賞歴を持つベテランコピーライター、エッセイも洒脱でエスプリが効いている。「骨董と病気は人間を変える」「他人のモノは、よく見える。他人のモノは、欲しくなる」、本質を突いた言葉は説得力がある。

素人だった人間が、骨董の魅力にずぶずぶとはまって行く様子が、ユーモアたっぷりに綴られている。週末になると全国の骨董市や蚤の市を走りまわり、あるときは贋作に泣き、また掘り出し物に出会って笑顔になる。「この徳利があなたです」、持参した粉引の徳利を見て、白洲正子さんにそう言われた。使い込まれてあちこちシミだらけの汚い徳利なのである。



どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

文学探訪

人生探訪の徒、倉田百三の流転⑦

「論考」のなんと多いことか

音谷 健郎

倉田百三の全著作を眺めると、「論考」というか小論文がずば抜けて多く、次いで戯曲、そして小説、それに短歌となっています。「どう生きるか」を求め続けた百三にとって、「論考」という表現形態が、何より性に

合っていたのではないのでしょうか。

その端緒は、言うまでもなく旧制第一高等学校（現・東大教養部）の時の作品を中心とした『愛と認識と』の「愛」をどう位置づけるか、愛の崇高と絶対性を説きつつ、その俗性、動物性からも眼をそらせませんでした。その葛藤を乗り越えるための「信仰」は、この時はまだはっきりとした形をとっていません。

内熟していく百三が、どのような道筋を辿ったのか、興味が尽きません。小難しく敬遠されがちな「論考」の深化の過程を訪ねてみます。

『愛と認識との出発』は、一高3年次、大正2年秋、一高校友誌に「恋を失った者の歩む道——愛と認識との出発」として投稿した小

論文が象徴する作品群です。この「恋を失った——」は、日本女子大の学生逸見久子（H・Hの名で登場）との恋愛に破れたうえ、肺結核と脊椎カリエスの発病が重なり、自殺の場を求めて神戸・須磨の海岸を彷徨した気持を綴ったものです。

「私は生涯にまたとあるまじき重要な地位に立っている」と始まります。「私の生命は内よりも外よりも危機に迫っている。私は自己を救済すべく今いかになすべきか。また何をなし得るのか。心の内奥に君臨するものは一種の深き道徳的意識である」と始まります。

この時、須磨の海岸で、自殺した青年に遭遇し、「土色の唇から粘いガラス色の液を垂れてふっくふっく息を吐いていた」のを見て、「私は死ぬまい。苦しければ、苦しいだけ死ぬまいと思つた」と記しています。この青年の死骸の目撃は「実感として私に『生』に対して企てられたる罪悪の意識を与えた。生に対する無限の信仰と尊重とを抱いて立つとき自殺は絶対的の罪悪ではあるまいか」と言い切っています。信仰の厚い真宗門徒の家に育ち、身体の中に「信仰」が、根付いているように思えます。これを裏付けるように、「私にとって



百三が戸郷川や国兼池に遊ぶときに通った小路（しょうじ）。中本町の百三の家から、道を隔てたほぼ向かいにあり、「百三の道」として今も親しまれています

倉田百三文学館（田園文化センター内1階）

戯曲『出家とその弟子』をはじめとした百三の原稿、著作、遺品、書画、書簡など約200点を展示。書簡の中には、『出家とその弟子』を絶賛したフランスのノーベル文学賞作家ロマン・ロランが倉田百三に宛てた2通も含まれている。

《お問い合わせ》

〒727-0013 広島県庄原市西本町二丁目20番10号

TEL:0824-72-1159



◆主だった「評論集」のリスト◆

※長編は『』、中・短編は「」で括弧しています

- 大正 10 年 『愛と認識との出発』（小論文計 17 編）
大正 11 年 『静思』（12 編）
大正 12 年 『転身』
大正 13 年 『超克』
大正 14 年 「希臘（ギリシャ）主義と基督教主義との調和の道」
昭和 5 年 『絶対的生活』（上下、計 21 編）
昭和 7 年 「生活と一枚の宗教」
昭和 9 年 「大乘精神の政治的展開」
「法然と親鸞の信仰」
昭和 13 年 『祖国への愛と認識』
『青春の息の痕』（59 項目）
昭和 14 年 「日本主義文化宣言」
昭和 15 年 『静思』（大幅に改編）
『絶対的生活（増補新版）』
昭和 16 年 「共に生きる倫理」
昭和 28 年 『青春をいかに生きるか』（角川文庫）

最も痛切なる理由は自殺が私に最深の道徳的満足を与えないことである」とも言っています。

同小論文では、哲学者カントやショウペンハウエル、文学者ドストエフスキー、トルストイなどを挙げて、愛と認識について考察を広げ、「私は本能的な愛とキリスト教的な愛とを混雑させていた。私は前者より後者に推移せねばならぬ。これが高価なる経験が私に与えた最も重大な成果でもある」と結論づけています。百

三が生涯をかけて追い求めた「愛と信仰」は、ここから出発していると思えます。

論集『愛と認識との出発』刊行の翌年、大正 11 年に世に問うたのが論集『静思』です。一高を退学して 9 年目です。創作活動は、多方面にわたり、絶頂期とも思える時期です。「時代は歴史的転換の渦巻の中」にあるので、「我々は比の歴史的現実の為に営為し、責をとり、同時代への寄与をなさねばならない」と、大ぶりに

書き出しになっています。

「思想家は斯様な已むを得ざる世紀の危険の前に、永遠と人間性とを保存する為の用意を、其の使命の半とすべきものである」と覚悟を述べ、「動の中の静を忘れず、寧ろ動静一如なるは、古来東洋の賢者の道である」として題名「静思」の由来を述べています。

論者は「道心の三つの相に就いて」「積極道」など訓話風ですが、「有島武郎氏に答ふ」で、有島武郎との労働運動をめぐる論争が目を

引きます。

この翌年には『転身』、その翌年が『超克』と続きます。幸徳秋水らを死刑に処した大逆事件で、世間は実質、言論統制下の“冬の時代”です。この 2 作は「倉田百三選集・全 14 卷（別巻を含む）」（発行所・日本図書センター）に入っており、直接読むことが出来ませんでしたが、百三研究者の西田寿吉氏の解説によると、『静思』『転身』『超克』は、「思想的基盤を明確にした」作品であり、「文芸的」にも高く評価された、として

います。

9 年の間を置いて刊行した『絶対的生活』は、上下 2 巻にわたる壮年期の大作です。だけど、「序言」は無く、いきなり「生活者の悩み」「生活者として考へねばならないこと」と、大所高所というより、生活者としての視線が目立ちます。

題名ゆかりの「絶対境に就いて」では、自分の病臥について触れ、「自分は性交と観照との障礙に於て、此の苦しみの絶対境を体験してゐる。自分には比の人生の二つの大いなる悦楽が無い。深刻極まりなき色飢餓の苦痛に就いては語る事さへ出来ぬ。併し自分に観照の悦びだにあるならば、それを補ふに足る悦楽を見いだす道は知ってゐる」と告白しています。百三の創作姿勢の一端を垣間見た気分です。

このように百三は、大正、昭和と長期にわたって時代に対し、「愛と信仰」の視点から、哲学的な考察を続けました。振り返って見て、このように時代と向き合う思考を書き続けた作家が他にいたでしょうか。百三のこのひたすらな精神力に、再度、光を当ててみるべきだと思います。

ハロー注意報⑩

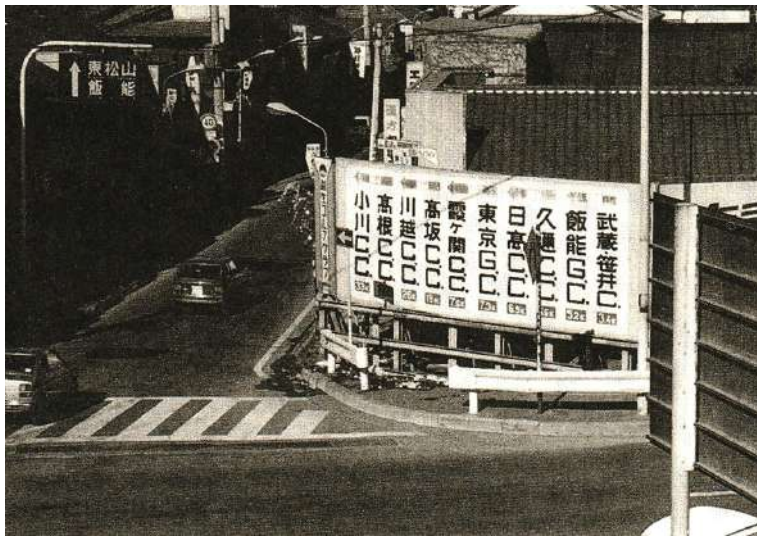
——進駐軍がいた町のはなし

ゴルフ場は名門ばかり 松岡初枝

狭山市や近隣には名門ゴルフ場が数多くある。中でも宮様ゴルフ場として当地の人達に親しまれている東京ゴルフ倶楽部は、特に別格のゴルフ場で、ゴルフアー達には垂涎の的存在なのだ。大正二年（一九一三年）東京ゴルフ倶楽部は東京駒場で誕生

した。今の駒沢オリンピック公園の所で、摂政官時代の昭和天皇が、英国皇太子プリンス・オブ・ウェールズと親善ゴルフを楽しんだことで知られ、今でもプリンス・オブ・ウェールズ杯が存続している。

各ゴルフ場への案内板



昭和七年、埼玉県朝霞に移転し、朝霞コース時代には来日中のベーブ・ルースもプレーした。その後昭和十五年に朝霞から狭山へ再移転した。元々は秩父宮カントリー倶楽部の建設が終えていた所へ合併して再出発し、今の場所にやっと腰を落ち着けることができた。とは言え戦時下のプレーは大変なことだったらしい。それでもゴルフクラブを風呂敷に包んで自転車で通ったメンバーもいたという。

敗戦後は進駐軍に接收されてしまい、日本人はプレーできなかつた。当時はジョンソン基地から車で十五〜二十分程の所にあるゴルフ場は、米軍将校達の社交場となり、週末にはジープや乗用車が列を作って通っていたという。やっと日本が独立した昭和二十八年に自主運営ができるようになり、昭和三十年、東京ゴルフ倶楽部は正式に日本人のためのゴルフ場となった。こんな苦難を乗り越えての今があるという訳だ。

この外にも霞ヶ関カントリー倶楽部、狭山と川越にまたがるコースで、東京ゴルフの隣にある。トランプ大統領と安倍総理がプレーしたことで注目された。武蔵カントリークラブ、久邇（くに）カントリークラブなど、多くの名門コースがある地だ。これらのゴルフ場は短パン、衿無しでのプレーはもとより、クラブハウス入りにもジャンパーなどはNGだ。私が子供の頃には有名プロゴルフアーがこの地に何人か住んでいた。中でも東京ゴルフ倶楽部専属の陳清波さんは忘れられない思い出のある人の一人である。陳清波さんは台湾出身のプロゴルフアーで、ワールドカップ、マスターズなどに出場したり、日本オープンでの優勝など数々の実績を残して、日本プロゴルフの殿堂入りまでした人である。今は日

本に帰化し、九十歳をすぎてもお元気でさいたま市に在住している。

私が子供の頃、車で五〜六分の所に住んでいた陳さんは、我が家の美容院のお客である奥様をよく送って来た。ベージュ色のベンツを店の前に横づけし、運転席から身軽に降りた陳さんが助手席のドアを開けてやるジェントルマンで、陳さんの車が止まると近所のおばさん達は「あれが紳士ってもんだね」と感心していた。「コンニチワ！ウチの奥サン奇麗ニシテクダサイネ！」陳さんはあまり日本語ができない奥様の注文を代わりにする。「セミロングのパーマネ。写真モアリマス」と言ってみると笑って出てゆく。身長は百七十センチ程でスリムな陳さんは、子供の私が見てもカッコ良く優しい人だった。二時間ほどして迎えに来る時は、いつも何かしらのお土産を持って来てくれる。大きな缶入りのクッキーやチョコレート、香りのよい石鹸などで「ボクモプレゼントシテモラッタノデ、気ニシナイデー」と笑う。母は「陳さん、いつもありがとうございませう。今度の大会も頑張ってください」と言ってお代金を頂く。店の皆に手を振って出てゆくのを見た他のお客は「ハア、うちのお父ちゃ



プレー中の陳清波プロ



東京ゴルフ倶楽部のクラブハウス

んに爪のアカでも飲ませたいよ」と大笑いする。私もハンカチなんかも買ったので、「陳さんステキー!」と思った。

日本の景気が右肩あがりになった頃、最初のゴルフブームがあった。しかしまだ一般庶民には高嶺の花で、政治家、大会社の社長や役員、外国人の接待、スポーツ選手などがゴルフ場にやって来た。ほとんどがメンバー制のゴルフ場なので、プレーする人達も特別な立場の人だ。狭山市内に住む少し元気のいい、まあまあ

の美人女性がキャディとして働きたしたのもこの頃である。ゴルフ場近くに住む農家の若奥さん、女学校出身で少し英語ができるオバちゃん。プロゴルファー志望の若い人など、いろんな立場の人達が基礎知識の勉強の後、重いゴルフバッグを担いでコースを廻る。もちろんお給金もいし、なんとと言ってもチップの金額も多い。

キャディさん達が店に来ると、まあ景気のいい話題が飛び交う。「〇〇会社の社長なんてチップもプレゼン

トもいいのよ!」「あら、プロ野球の選手だってそうよ。入場券もくれるよ」「何てたって政治家よ。特に選挙前ネ」。とどのつまりは「畑なんか掘ってるなんてバカバカしいよ」「Mさん家(ち)なんて旦那がグリーンキーパー、奥さんがキャディ、今度家を建て替えるそうよ。奥さんは政治家の御指名だもの:」、ちょっと奇麗な顔はすっかり日焼けしてしまっても、それは彼女達の勲章だ。休日には都内のデパートへ買い物に行き、化粧品はP社やS社。「あんまり白く塗ると牛蒡の白和えみたいだ

ものネ」皆でワハハと笑って帰ってゆく。「ついこの間までバアちゃん」と揉めていたけどサ、小づかい渡しはじめたら今じゃ平和なものよ。祖母と母は戦前、戦後いろいろなお客に接して来たので、世の移ろいがよく分かると言っていた。世の中金ばかりではない。それはそうだが、かなりの嫌なことがあっても、お金の力で何とかなるのかなあと子供なりに感じていた。勉強、習い事、

家の手伝い、今はそれが大事だと大人は言う。それでも早く大人になりたい気持ちと、今のまま子供でいる方が楽しそうだと思う心が私の中で入り乱れていた。

今、ゴルフは誰にでも楽しめるスポーツになった。私が子供の頃練習生だったAプロや女子プロのHさん達は今や日本ゴルフ界の重鎮になっている。そしてゴルフはオリンピック種目にもなり、二〇二〇東京オリンピックでは霞ヶ関カンツリー倶楽部が競技会場になった。もしコロナウィルスの蔓延が無ければ、皆で観戦に行きたいね、と楽しみにしていた。プロゴルファーの数も増え、世界に出てゆく男・女のプロも多い。世界で活躍する選手達が堂々とプレーする姿は、テレビで観ていてもワクワクする。

七十年前、何となくゴルフというスポーツを知った私だが、この地が東京に近く道路事情もはるかに良くなった。休日には各ゴルフ場の送迎バスが行き交っている。今も美しい緑の木々に囲まれたゴルフ場は、私の心にいろいろな思い出を残してくれた特別な場所なのである。

「どうしたの？」

思わず訊いてしまった。右脇に、松葉杖を抱えている。

「やっちゃいました」

右足の甲の部分にある中足骨という部位の疲労骨折、練習のし過ぎが原因だという。

「この本、返却してもいいですか？」

彼女が、シヨルダーバッグから一冊の本を取り出した。半年ほど前に買ってもらった本だった。「高橋尚子・夢はきつとかなう」、著者はノンフィクションライターの黒井克行。表紙の見返しに「夢はかなう」という言葉と、高橋尚子のサインが書かれている。以前ほどはサイン本が珍重されなくなったとはいえ、古本屋をやっているとこんな僥倖がたまにある。

「一生の宝物にします！」

高校の陸上部だという彼女の飛びっきりの笑顔を思い出した。表紙のカバーの、シドニーオリンピックの女子マラソンで、金メダルを取ったときの高橋尚子の笑顔が重なった。

彼女に椅子をすすめた。少し話をしたいと思った。

「このタイトル、嘘ですよね」

勝気な瞳でにらまれた。

「だって、みんなの夢がなくなってしまふことなんかありえない」

その通りだと頷いた。

「全員じゃないかもしれないけど、みんな勝ちたいと思って大会に出てくる。わたしだってそう。絶対優勝したいと思って参加してるし、そのためにきつい練習もしてる。でも、最初にゴールするのは一人だけ。ほとんどの人は、夢なんかかなわない

は一人でも、必ずいるんだからね」

「でも、それ以外の人は……」

「世の中は不公平だよ。成功した人の声しかみんなに届かない。何の実績もない人の話を聞いても、誰も感動してくれない。脚光を浴びて、こうして本になるのは、トップを取った人の栄光の物語だけだ」

言い過ぎたかな、と思った。本を商う者の一人として、本を擁護をし

「恩返し？」

「君と同じぐらいの年齢のときかな。今、思い返しても、あの時代がいちばん辛かった気がする。思春期もあつたんだろうね。自己嫌悪……、すべてに自信がなくて、周囲の人間が怖くていつもびくびくしていた」

彼女が驚いた表情を浮かべた。

「そんなときに、太宰治の『人間失格』と出会ったんだ。読んだことは？」

彼女がブンブンと首を横に振った。

「どれだけ自分がダメな人間かを、これでもか、これでもかと告白するような小説なんだ。自分と同じような人間がいるんだと初めて知った。世の中のことを何も知らなかったんだと気づいた。世間にはいろんな人間がいる。おれのような人間もいるんだと安心することができた」

自分で小さく頷いた。

「今では、ごく平凡な人間なのだと自覚しているがね」

思い知らされたと言うべきか。

「今でも助けられている本がある。阿佐田哲也の『新麻雀放浪記』というギャンブル小説なんだが、読んだことはないよね？」

彼女が頷いた。

「その作家には『麻雀放浪記』とい

生涯の三冊

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑨5

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

……

涙があふれだした。

「半分は当たってるけど、半分は外れている」

彼女の気持ちが落ち着くのを待つてから言った。

「君の言う通り、ほとんどの人が挫折する。それでも、高橋尚子さんのように、自分の夢を本当になんかえまう人もいる。最初にゴールする人

「本が好きだったんだろうね。こうして古本に囲まれていると、居心地がいいし安心する。それに、恩返しもあつたのかもしれない」

「どうして本屋さんを開こうと思ったのですか？」

よく訊かれる質問だった。

「その作家には『麻雀放浪記』とい



う代表作があるんだが、その主人公がみんなから坊やと呼ばれる駆け出しの若いギャンブラーなんだ。『新麻雀放浪記』では、その坊やがうらぶれた中年男になって登場する」

彼女の顔を見た。

「陸上の長距離選手にとって、一番大切なものはなんだろう？」

とまどった表情を浮かべた。

「走力？ 持久力？ 精神力？」

しつくりこないようだ。

「走るときの安定したフォーム？」

ああとばかりに彼女が首肯した。

「ギャンブルも一緒なんだそうだが

多少のツキや不運に左右されない

で、自分のフォームを堅持する。タ

ネ銭……、賭けるお金が尽きたら最

後だし、少額でも賭け続けないと勝

負のあやは体感できない。だから、

大きな運気の波がくるまで自分の

フォームを守ってひたすら我慢す

る。小説が面白かったので、このギヤ

ンブル理論に妙に納得してしまつて

ね。それから、失敗したときや落

ち込んだときに浮かんでくる。何を

する元気もないときに、自分の

フォームを思い出す。まあ、フォー

ムなんて大げさなもんじゃないんだ

が、要はちゃんと生活するというこ

と。朝起きて顔を洗って、飯を食っ

て仕事をして、本を読んでちゃんと

寝て……。無理にでも毎日のルー

ティーンをコツコツこなしている

と、いつの間にか日常を取り戻して、

前向きな気持ちになってくる」

十年以上の両親の自宅介護も、大

切な人との死別も、東日本大震災の

ような自然災害のショックも、そう

してどうにかやり過ごした。

「もう一冊、感謝している本がある。

ウィルバー・スミスの『熱砂の三人』、

失業中に図書館で借りて読んだが面

白くてね。イタリアにムツソリーニ

という独裁者がいた時代のこと、

武力でアフリカのエチオピアを制圧

しようとした。イギリスの元少佐の

武器商人とアメリカのエンジニアが

組んで、ポンコツの装甲車を高値で

エチオピアに売りつけようとするん

だが、戦闘に巻き込まれてしまう。

そこに美人のジャーナリストが絡ん

で……」

はっと気づいた。

「まあ、その一冊で何日も幸せな気

分になれた。小説の力、本の力とい

うものをあらためて思い知らされ

た。古本屋を始めたのも、そういう

本を読んでほしいし、自分でもまだ

まだ面白い本に出合いたいという願

いがある」

彼女の顔を見た。

「で、本の買い戻しだったよね」

店で販売した本は、他の本を買っ

てもらえるのなら半額で、現金なら

ば三割で買い戻しを行っている。

彼女が頭（かぶり）を振った。

「この本はまだ持っています」

松葉杖を持って立ち上がった。

「他の本を見させてもらってもいい

ですか？」

笑顔で言った。

秋の虫が鳴いている。コオロギだ

ろうか。店内に迷い込んだのか、本

棚の奥の方から聞こえてくる。古本

好きの虫なのだろう。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。
無料の漫画ルームもあります。
- ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※10月10日(木)～13日(日) 臨時休業します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL：090(9913)3052
- 営業時間 9:30～18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

第三部 生活に身近な項目を見る

六月十六日 嘉祥（かじよう、和菓子の日）

長い歴史を持ち、この日に菓子を食べて厄を祓い、福を招く嘉祥（嘉定とも）という行事があった。明治



時代には廃れていた。しかし、昭和五十四（一九七九）年にこの由緒ある伝統行事を後世に伝え残そうと、全国和菓子協会は六月十六日を「和菓子の日」に制定した。

歴史を見ると、平安時代からとも伝わっている。室町時代には、幕府の納涼で楊弓（ようきゆう）の試合が行われ、敗者が勝者を中国の宋銭「嘉定通宝」十六枚で買った食物でもてなしたと伝わっている。

江戸時代、嘉祥は幕府・官中・民間で行われましたが、盛大な行事としたのが幕府でした。この日、御三家などを除く大名、旗本は江戸城に登城し、將軍から菓子を賜った。「嘉定私記」（一八〇九年）によれば、羊羹（ようかん）・鶉（うずら）焼・寄水・饅頭・金飴・あこや・平麩（ひらふ）・熨斗（のし）の八種であった。

六月二十七日 大山詣（おおやままいり）

大山といっても日本百名山になっている大山（だいせん）ではない。

神奈川県の大山は、江戸時代には山岳信仰として、一番人気があったのが大山詣で、多くの江戸庶民が崇拜していた山である。大山が信仰の山として崇められるようになったのは、「良弁（ろうべん）」、東大寺を開山した人で、この人が中腹に鎮座する大山寺を開いたとのこと。これにより、大山寺と阿夫利神社（第十代崇神天皇の御代に創建）が一体となった大山信仰が形作られていく。鎌倉時代、頼朝は自らの刀を奉納、多くの土地を寺領として寄進した。幕府庇護のもと発展を遂げていった。室町時代には足利氏と関東管領上杉家の庇護も受けた。戦国時代には、大山の修験勢力は武力と情報収集能力を買われ、小田原北条氏の支配下に組み込まれた。

江戸時代に入ると、幕府は修験者たちの武力を恐れ、大改革を行った。それは、大山を関東の高野山に位置付けるため、戒律を厳しく守り妻帯を持たない清僧のみを残させた。また、宗派に関しても、華嚴・真言・天台とあるのを真言のみとした。そして、山中の修験者や神職は麓へ移した。しかし、彼らが師弟集落を結成し、大山信仰の強化に努めたため、大山講の組織化が進み庶民の間に大

山詣が流行した。江戸の人口百万だった当時、二十万の人が大山を目指したとのこと、大変な人気だったようだ。

※写真は大山寺の童子様

六月二十九日 夏越の祓

大祓は、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）の禊祓（みそぎはらえ）をルーツとする神事で、心身の穢れや厄災を祓い清める儀式である。

一年の半分の節目の晦日（みそか）に、罪や穢れを形代（かたしろ）に託して清め、茅の輪をくぐって無病息災を祈願します。古代律令体制下で行われた民俗信仰に基づく年中行事のひとつで、六月の神事を「夏越の祓」、あるいは「夏祓」「水無月祓」などと呼び、十二月の神事を「年越しの祓」という。平安時代の宮中では、律令体制崩壊と供にくずれ、室町時代で絶えてしまいます。しかし、この行事は民間にも伝わっていて発達し、ことに六月の祓は夏季の悪疫除去の意を含めて盛んに行なわれるようになり、「夏越の祓」として残ったということだ。

（著者は広島市安佐地区の郷土史研究会「安佐通史会」会長。旧暦の啓蒙や「旧暦カレンダー」の普及に尽力している。）

ヨーロッパ23日間「卒業旅行」(一)

マック☆ヤマザキ

1990年代は高校生、短大生、大学生の「卒業旅行」が大ブームだった。毎年2月20日過ぎごろ、学校の卒業試験を終えたばかりの学生たちは、未知の土地、国での体験を求めて国内、国外へと大移動をおこなっていた。

当時、私は旅行業専門学校、旅行学科のある女子短期大学、大学を掛け持ちで教鞭を執っていて、今でいう「フリーランス」の立場。休暇中の収入は保証されていないので、休

暇となる年末・年始、ゴールデンウィーク、お盆の間は、「添乗員」として働いて生計を賄っていた。

今回紹介する「卒業旅行」の仕事は、私にとって“天からのご褒美”のような仕事だった。業界でも「ヨーロッパほど歴史が深い所はない」と言われているが、そうしたヨーロッパの六か国に、添乗員として23日間もかけて訪問出来るのである。

それにしても、23日という長い海外旅行を許してくれる親御さんたちの

体験談をまとめた冊子 (1996年)



の経済力とわが子を海外に送り出すという勇氣に、驚きと感服を覚えたものです。私の責任は重大で、学生たちには初めて訪れる旅先の地理、歴史、現地の人とのふれあい等、目の前の現象を解説し、少しずつでも世界に目を開いて欲し

い、その手伝いをするのが一番大切なのだという思いがあった。

1990年2月16日金曜日の午後、卒業試験を終えたばかりの学生たちは嬉々として伊丹空港に集合していた。成田空港、アンカレッジ空港を経由して最初の目的地イギリス・ロンドンに向かう。大学生と短大生の合計28名プラス大学の名誉教授1名という組み合わせである。

旅行中、事故や事件に巻き込まれないよう、旅券、カード、現金等の盗難、紛失に遭わないことが最大の願いだった。成田空港では、自国の旅券の提出をし、出国を許可するスタンプをもらった。400人に近い乗客の一員となり、その上400人分の手荷物(サムソナイト)、そればかりかロンドンまでの燃料、乗客の食事を積み込んだボーイング747(ジャンボ機)が滑走路からいよいよ飛び立った。

翌早朝、ロンドン・ヒースロー空港に到着。入国の手続きに入る前、私はグループの先端に立って入国管理官に、旅行の目的、総人数を告げ、英語が出てこない学生たちに先回りして準備した。成田空港で出国のスタンプを押してもらった旅券のページを開いて入国審査官に提出、今後

も各国の空港で経験する所定の手続きだ。時差ぼけでの初めての入国手続きは、思いの外スムーズに通過することができた。全員分のスーツケースが戻ったときはホッとした。到着ロビーで迎えてくれたガイド兼ドライバーのナイジェルに命じてバスを回してもらった。空港に待機しているポーターに依頼して、学生たちのスーツケースをバスに乗せる手順を示して見せた。

学生たちの出費を抑えるため、宿泊費は原則として、朝食のみが含まれている。それも、日本人には評判がイマイチのコンチネンタル・ブレックファースト。ジュース、シリアル、ミルク又はコーヒーとパンのみと説明しておいた。

前回の卒業旅行では、ホテル側が一週間前に作ったのではと思われる丸くて焦げたボールのようなパンが出て、学生の一人がふざけて壁にぶつけたら、跳ね返って来た。勢いよくかぶりついて口の中をケガした、などと少しオーバー気味の例を挙げて注意を促した。でも、食事前に全員が手を合わせて「いただきます！」と言っているシーンを見て、嬉しく思った。彼たちの家庭でのしつけを垣間見れて、微笑ましくもあった。

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

秋水に写真で見たる堀の鯉

近藤 昌平

消えるまで見ている二重虹だから

富久光

背山より今年仕舞の法師蟬

片岡 正人

完熟のトマトと夕日籠に入れ

隆愚

掛け声と槍の飛んでく夏のパリ

大槇 三代子

秋初め死中活有金メダル

寺内 龍二

出雲路の石段高く赤とんぼ

赤川 冬人

失ひしもの嘆くより前を向けと

松岡 初枝

パラの選手は体で語る

投稿&寄稿

候のことば

「水始涸」と「櫓」

隆愚

日本の暦に二十四節気と七十二候があります。秋分の末候は十月二日から七日まで、「水始涸」（みずはじめてかれる）の候といひます。

田の水に豊かさがなくなり、井戸の水が涸れはじめる頃という説と、田んぼの水を抜いて、稲刈りの準備を始める季節という説があります。たしかに、寒くなって川の上流に雪が降ったり凍ったりすると、下流の水は涸れたようになります。ですが、この時期のなじみのある風景は、水を抜かれた田んぼでしょう。田ん

ぼの水を抜くことを、「落し水」といひます。その水音が聞こえなくなった時が、いよいよ収穫（稲刈り）の時です。

稲を刈った後の茶色い「刈田」が、しばらくすると、緑に変わります。刈り株から、稲が再び芽を出しているのです。これを「櫓（ひつじ）」とか「藪（ひこばえ）」と呼びます。「櫓」の語源は「乾土・干土（ひつち）」、土が乾いた田んぼから出てくるからです。「稲孫」とも書きますし、「藪」も「孫（ひこ）生え」という意味です。よく見ると、小さな穂を出している事さえあります。

「仰支斯里神社」

赤川 仁洋

木次線の出雲八代駅の近くで、不可思議な名前の神社に遭遇した。「仰支斯里神社」、どう読むのかもわからない。隠れキリシタンに関係ある？ 随神門の左右に荷車の車輪が立てかけてある。

拜殿の壁に貼りだしてある解説板によると、「かみきり神社」と読む。出雲国風土記（七三三年）に出てくる古社で、古事記の「髪切り」に由来する。スサノオノミコトは高天原から地上に追放されるのだが、その

ときに「髪切り・爪切り」の天罰を受ける。どうやら神様には、髪の毛や爪に神通力が宿るらしい。このあたり、旧約聖書に出てくるサムソンの物語と共通点がある。

では、元は「髪切神社」だったのが、どうして「仰支斯里神社」となったのか。古老が草書で記された書物を写し間違えたのが原因だと書かれている。「髪切」を「彭友期里」と誤記し、さらに「仰支斯里」と間違えた。くずした文字の草書は読みづらい。しかし、仰支斯里の方が断然、風格がある……、意図して間違えた？ 車輪が置かれている理由は、今でも謎のままである。



どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

「庄原を想う会」主催の交流会

「気軽に庄原について話し、仲間の輪を広げよう」

日時：10月5日(土) 9:30～11:30

テーマ：「エゴマを活用した健康生活」

講師：入江幸弘氏（エゴマ生産者）

場所：地域交流室1

参加費：500円

（学生200円、お茶菓子代込み）



申込み&問合せ：080-3631-9125（やない）

「ぐんぐん伸びよう会」

（教室：庄原市川西町241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ）

黒板のない教室

当教室の特徴

- ・乳幼児～小学生を対象に、能力開発として個々の生徒の「可能性」を追求する。
- ・母国語である国語を重点的に行うことで、脳を活性化させて、思考の土台作りを行う。
- ・算数・数学の基礎である数感覚を身に付けることで、小学6年生までに必要な四則混合を得意にさせる。
- ・年2回(夏・冬)に暗唱音読会を実施することで、生徒の記憶する能力を高め、自信を養わせる。



無料体験学習受付中！！ お気軽に問い合わせてくださいね。

対象者：0歳～小学6年生

徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家（徳岡佛性坊）として多彩な活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品の展示販売を、どら書房の一角でしています。

茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を展示しています。あなたのお気に入りの逸品が見つかるかもしれません。

※天井が低いので頭上注意！

どら書房無人野菜販売コーナー

新鮮で安全な野菜を店頭で販売（値札のないものは百円均一）。
毎週水曜日の朝に入荷予定。

●黒ニンニク好評販売中！●

（青森産ニンニクホワイト六片使用）

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの効果が期待できます。

（80g入り500円）

※売り切れのときはご容赦ください。

編集後記

◇木次線ストロール再開で、少し欲張って翌日は日本海の日御碕（ひのみさき）を訪問。これは「中国絶景の旅」として、次号で紹介する予定。

◇出雲市内で一泊したのですが、体が快適な冷房に馴染んでしまつて、残暑が余計に癒えました。足腰のダメージも重なつて、ただ今、二度目の夏バテ中です（苦笑）。

◇食欲がないので食べたいものを食べているのですが、今の主食は焼きおにぎりです。作るのも簡単。

◇先月号の編集後記、欲張り過ぎました。カープの失速は残念ですが、夢を見させてもらいました。その分、サンフレッチェに期待！

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail:touzin@nifty.com

誌面デザイン：ROUTE183

協賛：九日市愛好会

第277回

くんちいち

ひょうばあ九日市

◇ イベント情報 ◇

九日市ライブ④★毎月開催予定、今回の出演は坂本まさひろさん（「感動と健康を地域に」をテーマに活動中！）、堀内トミオさん（エド・シーランのカバーシンガー、日本の名曲にも挑戦）

★出演者募集中！参加申込フォームか comeme 商会 公式 Instagram の DM から申込みを。

参加申込フォーム：<https://forms.gle/TCcDob1YS8GdSn766> Instagram：<https://www.instagram.com/comemeshokai/>



九日市ライブ④(まちなか広場)

坂本まさひろ(9:30~)

堀内トミオ(10:00~)

10月9日(水)

9:00~13:00

TOPICS(開催場所は裏面の地図参照)

★市民ギャラリー「アート多愛夢」
10月8日(火)~10日(木) 10時~15時
「第20回庄原絵手紙大賞作品展」

★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き

★カフェクラウド タピオカドリンク100円引き
九日市特製ビタサンド600円

★ガレージセール「comeme 市場」開催(旧松本額縁店)

★アンドカフェ(比婆医院隣接)、2種類のスムージーが100円引き。

★どら書房、休憩室(漫画ルーム)あります! 無料です。

★あなたも自分のお店を出してみませんか?(出店者募集中!)

*出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,200円~
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10(楽笑座内)

【ホームページ】
<http://www.kunchi-ichi.jp>

